

2012年8月26日 週刊利根より引用

観音寺 境内清掃と開眼供養、開山歴住墓地移転法要、永代供養塔 篤志者からの寄贈「祈櫻観音」



沼田市下発知町の曹洞宗観音寺（五十木晃健住職）の大般若会法要が8月16日開かれた。同法要に加え「開山歴住墓地移転法要」及び「永代供養禅苑～いのちつないで～」の開眼供養、さらに、篤志者から寄贈された「祈櫻観音」の開眼供養が行われ阿部三郎総代長はじめ多くの檀信徒が参列し焼香した。

開山歴住墓地は、本堂に向かって右側の所を整地したところに移転し並べられた。その隣には永代供養塔の「永代供養禅苑」が新しく建立された。

本堂左手には「祈櫻観世音菩薩」が安置された。これは、今年の東日本大震災で転倒し頭部が落ち、左手も破損した観音像を一念を込め修復したものを篤志者が寄贈した。被害にあった人々を追悼し国土安穏を願い「祈櫻観世音菩薩」と命名し、記憶を風化させず後世に伝えるという。

開山歴住墓地や供養塔、観音像でそれぞれ開眼が行われ、鈴木潔州・嶽林寺住職ら僧侶の読経裡に参列者は香を手向けた。



開山歴住墓地移転法要



永代供養禅苑 ～いのちつないで～ 開眼供養法要



延命水子地藏尊 開眼供養法要



震災復興「祈櫻観世音菩薩」 開眼供養法要



大般若祈祷会